



すぎ 杉っ子

令和6年9月 5日 発行
学校だより 第5号
射水市立小杉小学校
TEL 0766-55-1055
E-mail kosugi-e@imizu.ed.jp

2学期のスタート

校長 杉 高 浩

34日間の夏休みが終わり、1年で一番長い2学期がスタートしました。7月中は35度を超える猛暑日が続きましたが、10日間計画されていたプール開放も、午前9時からの開放としたことや、多くのPTAの方々の協力もあり、無事に9日間実施することができました。

暑さ対策のため、2学期の始業式はテレビ放送で行い、子供たちはエアコンの効いた教室で式に参加しました。式辞では、「3人のレンガ職人(イソップ童話)」の話を交え、「目的」をもって頑張ることの大切さを以下のように話しました。

34日間の長い夏休みが終わり、今日から2学期が始まります。今年の夏の前半は、35度を超える猛暑日が続き、……中略……

2学期は3つの学期の中で、一番長い学期です。杉っ子ウォークをはじめ、杉っ子ステージ発表会、持久走記録会の他、多くの学年の校外学習など皆さんが楽しみにしている行事がたくさんあります。一人一人が全力を尽くして頑張してほしいと思います。しかしながら、長い学期の中をただただ過ごしてはとてももったいないですね。そこで知っている人もたくさんいると思いますが、校長先生から、「3人のレンガ職人」というイソップ童話のお話をしながら、どんな心構えてこの2学期を過ごしてもらいたいとお話したいと思います。

旅人が道を歩いていると、レンガを積んでいる3人の職人に出会い、「ここで何をしていますか?」と尋ねます。1人目は「レンガを積んでいるのさ、どうしてこんな仕事をしなければならないのか」と答え、辛くて不公平だと考えていました。2人目は「お金を稼ぐために、大きな壁を造っているのさ」と答え、家族を養うために仕事があることに感謝していました。そして、3人目は「歴史に残る偉大な教会(大聖堂)を造っているのさ」と答え、教会の完成をイメージし、そこに訪れる人々の幸せまで考えていました。



同じ仕事をしているはずなのに、この3人の違いは何でしょうか?

それは、「目的」をもっていかどうかです。「親方にやれと言われて、ただレンガを積んでいる」のと「教会の大聖堂を造るためにレンガを積んでいる」のでは、完成に大きな差がでます。

みなさんも、この2学期、しっかり自分の「目的」をもって、勉強や運動、習い事に取り組んでください。

例えば、「勉強」を例にとって考えてみましょう。1人目のレンガ職人のように、「お父さんやお母さん、そして先生に言われるからただ勉強をしている」のでは、やっている本人も楽しくないし、高まりもありませんね。次に2人目のレンガ職人のように、「自分が勉強することで成績があがる」となると、少し勉強するのが楽しくなってきますね。さらに、3人目のレンガ職人のように、「自分が勉強することで、いろいろな力がついて、さらに周りの人たちを助けてあげられ、喜ばれる」となると、断然勉強することが楽しく、さらに続けたくなりますね。しっかり自分の「目的」をもって取り組むことは前向きに取り組むことにつながります。また、困ったときや、うまくいかない時こそ、自分自身が、一回り大きく成長できるチャンスの時です。簡単にあきらめてしまうのではなく、もう少し努力を続けたり、周りの人や友達と別の方法はないかなと考えて、新しいチャレンジをしたりすることが大切です。……中略……

1学期のはじめに皆さんにお話しした「3つの名人」(笑顔名人、あいさつ名人、思いやり名人)になるためにも、「3人のレンガ職人」の3人目の職人のように、自分は何のために頑張るのか、自分が頑張ることによってどんなよいことが導かれるのかを考えながら、あきらめずにコツコツと頑張っていきましょう。そうすることで、皆さんの笑顔は今よりもっと多く見られるようになることでしょう。そんな笑顔いっぱい2学期になることを期待しています。

幼保小の円滑な接続について

～「架け橋期」について～

以前から保育園・幼稚園による幼児教育と小学校教育との連携の必要性が言われていました。令和の時代になり、「幼児期は遊びを通して小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期であり、小学校においてはその芽生えを更に伸ばしていくことが必要。」そのためは、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することが必要」と文部科学省が述べています。「特に5歳児から小学校1年生の2年間を『架け橋期』と称し、この時期の教育の充実を図り、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくることが重要」とも述べています。この架け橋期の教育を充実するためには、幼保小はもとより、家庭、地域等と立場を越えて連携・協働することが大切です。

そのことから、4月以来、学校の学習参観には校区内の幼稚園、保育園、こども園の先生方を招待し、1年生の児童を中心に学びの様子を見ていただき、子供たちの成長等を共有してきました。また、この夏休み中には6日間に渡り、24名の教員が4つの幼児教育施設で遊びを通じた学びを体験させていただきました。参加した教員から「子供たちが自分たちで遊びを選択できるように様々な道具が用意されていた。子供たちの主体性を育むための環境づくりの大切さを学んだ。」や「先生方の温かい雰囲気伝わってきた。視野を広くして子供たちを見守り一緒に楽しむことで、信頼関係を築くことができるということ学んだ。」等の学びの感想が聞かれました。

幼児期に育まれた資質・能力が、低学年の各教科等における学習に円滑に接続する教育活動となるよう、保育体験で得たものを生かし、さらに幼児教育施設の先生方との対話を大切にしながら円滑な接続に取り組んでいきたいと思えます。



“夏祭り”保育体験(大江保育園)

避難訓練(地震・津波)実施

今年の元日に能登半島地震が発災し、射水市でも震度5強の強い揺れや、津波警報が出されるなど、地震・津波の恐怖を体験しました。また、9月1日は防災の日ということもあり、本校では、9月2日(月)に地震・津波の避難訓練を行いました。あおい幼稚園さんも一緒に訓練を行う予定でしたが、朝からの雨のため、本校だけで実施しました。午前9時35分に日本海で地震が発生し、震度5弱で揺れているという想定で行いました。子供たちは地震発生放送の放送を聞いて揺れが収まるまで机の下に潜り込み、落下物から体を守りました。沿岸に高さ5メートル程度の津波が押し寄せているという2次放送を聞き、4年生以下の児童は頭をファイルで守りながら3階に避難し、津波警報の解除が出るまで静かに待機しました。解除後、校長の話聞き、各学級に戻って振り返りを行いました。今回の訓練ではほとんどの児童が素早くかつ静かに行動することができました。

最近、能登半島を始め、日本の色々な場所で地震が発生しています。“備えあれば憂いなし”とは言いますが、何よりも地震・津波等の自然災害が起こらないことを心から願うばかりです。

避難訓練

